

## 低温下における県内水稻主要品種の発芽特性

### [研究のねらい]

水稻の作期の前進化により播種時期が低温となり、発芽の揃いが悪くなる場合があります。ここでは、県内主要品種における低温下での発芽率、発芽の揃いについて明らかにします。

### [研究の成果]

- ①キヌヒカリが最も発芽しやすく、15℃一定条件下でも浸種後10日目には発芽率90%に達します(図1、2)。
- ②次いで、ミネアサヒ、コシヒカリ、モチミノリで発芽が早く、18℃一定条件下で7日、15℃一定条件下で13日で発芽率90%程度に達します(図1、2)。
- ③イクヒカリ、ハナエチゼンは低温下で発芽がやや遅く、発芽率が90%以上となるのに18℃一定条件下で8日、15℃一定条件下で浸種開始から18日間かかります(図1、2)。
- ④ヒノヒカリ、日本晴は低温による発芽の遅れが大きく、揃いも最も悪いです。15℃一定条件下では浸種後21日経過しても発芽率は90%に届きません(図1、2)。

### [成果の活用面・留意点]

- ①播種時期の気温が低い場合、特に低温下で発芽しにくい品種を栽培する場合は浸種、播種後の温度管理を十分に行う必要があります。

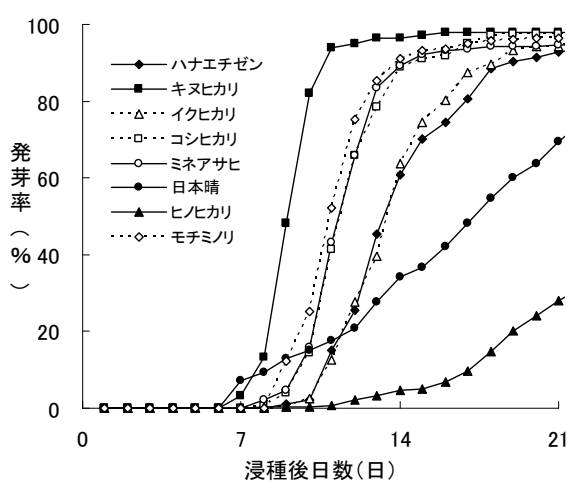


図1 15℃一定条件下での品種別発芽率の推移

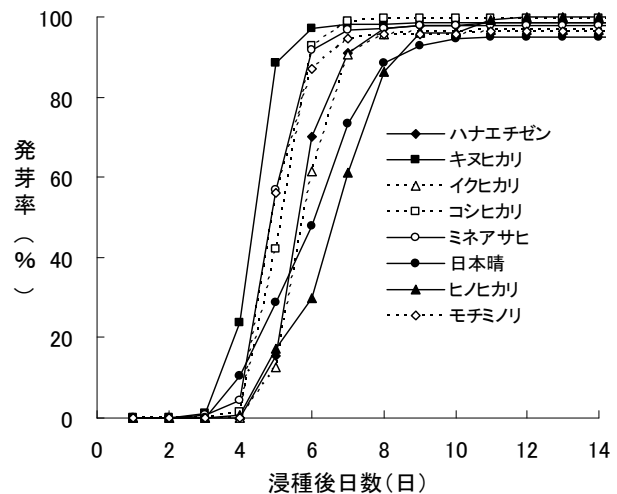


図2 18℃一定条件下での品種別発芽率の推移

実施年度：平成18年度

担当者：垣内仁、川西孝秀